

令和5年度事業計画

第1 公益目的事業

本学院は、各種詩歌等の吟詠法に関する科学的研究及びその指導法、並びに作詩法の研究指導機関としての役割を全うするために、広く吟道指導者を育成指導し、不特定多数の者に吟道の普及振興を図ることを目的として以下の公益目的事業を行う。

1 吟道に関する研修会、講習会及び大会の開催

一 研修会・講習会

(1) 日本吟道夏季大学講座 公1-1

詩歌吟詠法、作詩の理論及び実技の指導のため、次のとおり夏季吟道大学講座を開催する。また、遠隔地等で会場に出席できない人のために視聴覚教材(DVD)を活用した講座も併せて行う。5年度は、全国の会員の中から公募で特別講師2名を指名し、発表の機会を設ける。

令和5年8月25日(金)及び26日(土)の2日間

東京都江戸川総合文化センター

参加予定人数 670名

(2) 吟行研修会

下記「第73回日本吟道全国大会」の地方開催に合わせ、大型バスを利用して詩吟に関する名称・旧跡等を訪ね、詩吟等専門家による研修・野外研修等の指導を行う。

吟行研修会：令和5年5月12日(金)から14日(日)

「第73回日本吟道全国大会」

5月13日(土) 秋田市あきた芸術劇場ミルハス

参加予定人数 300名

(3) 中国国際詩歌節 公1-3

中国馬鞍山国際詩歌節(安徽省馬鞍山市)詩歌交流会にリモート参加し、中国の漢詩のより深い理解に努め日中友好を図る。

実施日 未定 参加予定人数 30名(内リモート参加10名)

(4) 地区吟道一般講習会 公1-4

詩歌吟詠に関する研鑽を深め、広く吟道を普及するため、次の地区において講習会を行う。

① 南部九州地区

令和5年6月25日(日) 鹿児島谷山市民会館

② 三重地区

令和5年7月23日(日) 鈴鹿市防災センター

③ 中部地区

令和5年7月30日(日) 安城市昭林公民館

④ 埼玉地区

令和5年10月29日(日) 日本吟道会館

- ⑤ 北関東地区
令和5年12月3日(日) 渋川市子持公民館
- ⑥ 神奈川・山梨地区
令和6年2月 日時・場所未定
- ⑦ 東京地区
令和6年3月16日(土) 小松川区民館

以上、参加予定人数 延 300 名

- (5) 指導者育成推進講習会等 公1-5
吟道を普及・発展させていくためには指導者の育成が不可欠であり、指導者の育成を目的として、下記講習会及び「吟道普及実践教室」を実施する。

(5)-1 指導者育成推進講習会

本部から専門家を講師として派遣し、次の地区において研修を行う。

- ① 北海道地区
令和5年6月21日(水) 場所 未定
- ② 北陸地区
令和5年7月30日(日) 大門総合会館
- ③ 神奈川・山梨地区
令和5年8月11日(金) 横浜市社会福祉センター
- ④ 北関東地区
令和5年8月20日(日) 渋川市子持公民館(予定)
- ⑤ 北部九州地区
令和5年8月27日(日) 黒崎コムシティ
- ⑥ 南関東地区
令和5年11月23日(木) 小松川区民館
- ⑦ 南部九州地区
令和6年2月4日(日) 場所未定

以上、参加予定人数 延600名

(5)-2 吟道普及実践教室

吟道普及には、その実践者としての自覚を持ち「真に指導にあたる指導者」の育成が不可欠で、本部主導の本格的指導者育成機関として令和4年4月に開設した吟道普及実践教室「至誠塾」を継続実施する。遠隔地の候補者については、オンラインによる通信受講を行う。

開講日 令和4年4月より令和6年3月までの2年間、原則として毎月第2・第4水曜日
(午後3時間)

会 場 日本吟道会館

講 師 当学院理事長・最高顧問等

塾 生 全国公認団体代表者から推薦された幹部指導者 第一期生 31名

(6) 伴奏講習会

公一7

世界に通じる我が国独自の文化芸術としての吟詠を普及するため、音楽知識の向上と科学的指導法の啓発のため、専門家による講習会を行う。

場所：日本吟道会館他関東3地区で、計5回開催

参加予定人員 140名

二 吟道に関する大会の開催

日頃の吟道精進の成果を披露するとともに、他の人の吟詠を聴き研鑽に励み、更に詩吟の魅力を広く周知して吟道の普及に資するため、下記諸大会を開催する。

(1) 日本吟道全国大会

公1-10

全国の会員を対象とする「第73回日本吟道全国大会」を開催する。

令和5年5月13日(土) 秋田市あきた芸術劇場

参加予定人員 400名

(2) 日本吟道名吟大会

公1-13

会員の吟詠力向上及び一般の方々に対する吟詠の普及を図るため、「第27回日本名吟大会」を、下記(3)「日本吟道全国吟詠コンクール決選大会」と同日開催する。

令和5年10月12日(木) 埼玉県川口総合文化センターリリア

参加予定人員 700名

(3) 日本吟道全国吟詠コンクール決選大会

公1-14

全国各地域より選抜された会員による「日本吟道全国吟詠コンクール決選大会」を、上記(2)「第27回日本吟道名吟大会」と同日開催する。

参加予定人員 700名

(4) 日本吟道青少年全国大会&壮心の集い

公1-11

幼少年及び青年を対象とした「第59回日本吟道青少年全国大会」と各地区の壮心大会で選出された代表者による「壮心の集い」を開催する。

令和6年3月

日時・場所未定

参加予定人員 150名

(5) 日本吟道壮心大会

公1-12

原則として65才以上を対象に、各地区が主体となって日本吟道壮心大会を行う。

2 吟道に関する普及活動への支援

吟道の普及活動を行うに当り、各地区における積極的活動を促すため、人的・財政的支援を行う。

一 公認団体の吟道大会の支援

公2

公認団体の周年行事に際して、本部からの役員の派遣及び大会経費の一部助成等の支援を行う。

二 地域活性化、吟道普及につながる事業への支援

三 各地の敬老会、養護施設、学校その他への慰問・指導

3 吟道に関する調査研究及び広報事業

公3

本学院は、各種詩歌等の吟詠法に関する科学研究及びその指導法並びに作詩法の研究・指導機関として「新世紀における吟詠研究会」を中心とした研究活動を行うとともに、その成果等については広報誌等を通じて公表する。

一 詩歌吟詠法及び作詩法に関する研究会

(1) 新世紀の詩歌吟詠法及び作詩法に関し、吟詠研究会を行う。 公3-1

令和5年 6月25日(日) 東京都文京区 日本吟道会館 25名

令和5年 9月17日(日) 東京都文京区 日本吟道会館 25名

令和5年12月 17日(日) 東京都文京区 日本吟道会館 30名

令和6年 3月17日(日) 東京都文京区 日本吟道会館 35名

(2) その他の調査研究 公3-2

その他、必要に応じて随時調査研究会を行う。

二 広報事業発表会 公3-3

不特定多数の人に吟詠を普及するため、吟道に関する各種資料、調査研究の成果等を公表すべく次の広報事業を行う。

(1) 吟詠に関する出版物の刊行

(2) ホームページによる広報活動

(3) その他、マスコミ、公共団体等を活用した広報活動

YouTube「学院事務局」への模範吟のアップロード等

第2 収益事業等

事業を補完し、これを積極的に推進するため、次の収益事業及び共益事業を行う。

1 収益事業

一 吟道に関する教本及び教材並びに物品等の販売

二 段級位、伝位及び師範位の認定

(1) 吟詠の技術の向上に伴い、段級位、伝位の認定を行う。

(2) 指導技術の向上に伴い、師範位の認定を行う。

2 共益事業

主として本学院の会員を対象とする次の事業を行う。

一 功労者の顕彰及び表彰

(1) 吟道発展に寄与し、特に功労顕著な者に、冠称を贈り顕彰する。

(2) 吟道普及に功績のあった公認団体の代表者に対して感謝状を贈り表彰する。

(3) 吟道普及に功績のあった会員を褒賞する。

(4) 吟道普及に功績のあった公認団体を表彰する。

(5) 永年にわたり吟道を研鑽した高齢者を表彰する。

(6) その他、随時、吟道普及に功績のあった会員を表彰する。

二 正会員吟道大会

正会員を対象として、総会開催時に正会員吟道大会を開催する。

令和5年度6月11日(日) 東京都千代田区主婦会館

参加予定者人員 140 名

三 新春賀詞交歓会

令和6年1月8日(月) 東京都文京区 日本吟道会館

参加予定人員120名(内、リモート参加予定者30名)

3 その他、目的を達成するために必要な事業

一 記録の制作と保存

本学院の事業等に関する吟詠等を記録及び保存する。

二 (公財)日本吟剣詩舞振興会主催の「全国吟詠合吟コンクール」に参加

令和5年12月10日(日) 市川市文化会館

三 その他、目的を達成するために必要な事業

以 上